

台湾マンゴー食べてみて

中華街の配布に行列



マンゴーのおいしさをアピールする台南市の議員ら
＝横浜市中区

台湾夜市の食を紹介する「台湾祭 in 横浜中華街」が開かれている横浜中華学院（横浜市中区）で18日、台湾最大のマンゴーで配られた。台湾最大のマンゴー産地・台南市からの議員団来日に

合わせたPRイベントで配布所には長い列ができ、用意された約500個がみるみるなくなった。

配布されたのは皮がリンゴのように赤く、アップルマンゴーとも呼ばれる愛文マンゴー。糖度が高く、豊かな香りと滑らかな食感が特長だ。

日本に輸出される台南産愛文マンゴーは、一つの枝で1玉を栽培するため大玉に育ち、甘みと栄養が凝縮されているという。議員らは「農家の思いがこもった台南産マンゴーのおいしさを伝えたい」と呼びかけた。
(西本ゆか)